

# 農薬の家畜残留試験



飼料作物等に使用できる農薬の登録申請時に国から求められるデータで、乳や肉、卵等の畜産物に農薬がどの程度残留するかを調べる試験です。

OECDテストガイドライン505「家畜の残留試験」  
 GLP準拠、EPA・EUの申請に対応可



## 泌乳牛における家畜残留試験

- ★動物数は、無処理群1頭、被験物質投与群3頭の3用量で計10頭
- ★投与期間は28日間
- ★投与中の乳、最終投与終了後24時間以内の生体から筋肉、脂肪、肝臓、腎臓を採取
- ★分析して組織中の親化合物や代謝物の残留濃度を定量



\* 上記は標準手法の場合です。

## 産卵鶏における家畜残留試験

- ★動物数は、無処理群(ただし各投与群ごとに設定)3羽、被験物質投与群10羽の3用量で計39羽(最小数)
- ★投与期間は、28日間
- ★投与中の卵、最終投与終了後6時間以内の生体から筋肉、脂肪、肝臓、皮膚を採取
- ★分析して組織中の親化合物や代謝物の残留濃度を定量



\* 上記は標準手法の場合です。

## 動物の飼育から分析・定量までを総合サポート

当研究所では、**動物の飼育・投与・試料の採取・濃度の分析・定量までの全ての工程を国内で実施**します。



試験期間や試験設計に関するご希望・ご相談等、お気軽にお問い合わせください。

〒252-0132

神奈川県相模原市緑区橋本台3-7-11

TEL 042-762-2775

FAX 042-762-7979 企画室宛

URL <http://www.riasbt.or.jp/>

E-mail [kikaku@riasbt.or.jp](mailto:kikaku@riasbt.or.jp)

RIAS

検索

